

○「小中一貫教育連絡協議会」「小中一貫教育フォーラム」の開催 ○実践事例集の作成

1. 小中一貫教育の導入状況

(市区町村数・学校数等は平成29年4月1日現在)

- 実施市区町村数：全45市区町村のうち9市区町村
- 小中一貫校設置状況：義務教育学校1校

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・本県の各種調査によると不登校児童生徒数が、小学校に比べて中学校が増える傾向にある。また、「授業の理解度」「授業への関心意欲」「一ヶ月の読書量」なども、中学校に進学するとともに低下する傾向にある。このようなことから、今後、より一層、小中の円滑な接続が求められる。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・小中一貫教育推進事業を通じて、子供の成長に応じた小・中学校間の円滑な接続のための取組を推進する。県教育委員会では、小中一貫教育推進について、協力市町村を指定し、小中一貫教育連絡協議会の開催、学校訪問等により市町村教育委員会への指導助言及び支援を行う。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

【熊本県における取組内容】

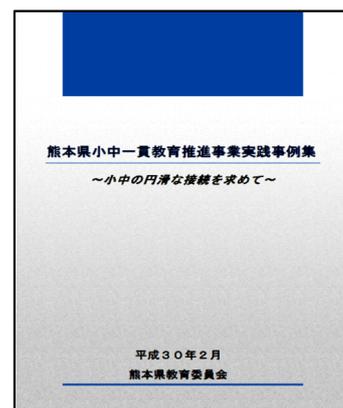
- 小中一貫教育連絡協議会の開催
 - ・委託地域及びモデル校の取組について情報交換や協議等を行ったり、学識経験者による講話や指導助言を行ったりすることにより、本事業における研究推進の一層の充実を図った。
 - 平成27年度は学識経験者の講話等により、委託地域等の取組の方向性等を確認するとともに、小中一貫教育について理解を深めることができた。
 - 平成28年度は先進地域の校長が講師として具体的実践等を紹介したり、委託地域等の取組について協議を行ったりすることにより、委託地域が円滑に小中一貫教育に取り組める体制を確立するよう支援した。
 - 平成29年度は2年間の取組の成果や課題等を共通理解するとともに、最終年度の取組のまとめ（研究発表、実践事例集等）についての確認等を行った。
- 小中一貫教育フォーラムの開催
 - ・県内の教職員や市町村教育委員会担当者を対象に、小中一貫教育に関する学識経験者の講話、委託地域及びモデル校の取組について実践発表を行うことにより、県内の市町村教育委員会における小中一貫教育への見識を深めることができた。また、平成29年度は、県内全市町村（熊本市を除く）からの参加を依頼し旅費を措置したことで、小中一貫教育に関する取組等を県下に広く普及した。

【参考】	学識経験者（講師）	平成28年度	京都産業大学文化学部	教授	西川信廣氏
		平成29年度	熊本大学教育学部	准教授	苦野一徳氏
	参加市町村数	平成28年度	24市町村		
		平成29年度	全44市町村		

●実践事例集の作成

- ・子供たちの発達や意欲・能力等に応じた教育システムや、小・中学校間の円滑な接続を図るための効果的な取組等を県下に普及させるため、委託地域及びモデル校の取組等を掲載した実践事例集を平成29年度に作成し、県教育委員会ホームページに掲載した。併せて、各市町村教育委員会、小・中学校及び義務教育学校に、本事例集を参考にしつつ、それぞれの地域や学校の特色や実情に応じた小中一貫教育、小中連携教育に取り組むよう周知した。

- 【参考】 掲載場所 熊本県教育委員会ホームページ
(義務教育 → 小中一貫教育)
(URL:<http://kyouiku.higo.ed.jp/page2017/page9059/>)



4. 本調査研究において取り組んだ内容

【本調査研究に協力した市町村における主な取組内容】

宇土市 → P30

●小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

- ・平成17年度に研究開発学校として指定を受け、小中一貫教育の研究を進めてきた宇土市立網田小学校、網田中学校をモデル校として指定した。モデル校においては、小中学校間をスムーズに接続するために、「乗り入れ授業の工夫・改善」や、「自分の考えや思いを豊かに表現できる能力を高める「スピーチ活動」の工夫を行った。これらの取組を全小中学校へ広げる取組を進めてきた。

宇城市 → P31

●小中一貫教育を推進するための体制の構築等について

●小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

●小中一貫教育を推進するための評価方法、成果・課題の把握について

- ・宇城市小中一貫教育推進計画を作成し、「中学校区を実施主体とし、施設の立地条件や特性に合わせた推進を目指す」という方向性を明らかにし、モデル校を中心に上記の項目について取組を進めてきた。

玉名市 → P32

●小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

- ・平成24年度から教育課程特例校の指定を受け、市独自の特色ある教科「玉名学」の研究に取り組んできた。また、モデル地域（岱明中校区「4小学校、1中学校」）では、目指す子供像の具現化に向けた共通実践事項の取組の成果などを研究発表会で公開し、他中学校区への普及にも努めてきた。

和水町 → P33

●小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

- ・授業における小中学校の差異をなくすために、小学校5、6年生の授業を中心に中学校の教員が乗り入れ授業を実施したり、小学校1年生から中学校3年生まで共通した授業モデルを構築したりし、共通実践を行った。更に、モデル校の課題である「健康な生活を過ごそうとする態度の育成」や「コミュニケーション能力の育成」についても、改善のために9年間を見通したカリキュラムを作成した。

八代市 → P34

●八代型小中一貫・連携教育～「やつしろスピリッツ」を基盤として～

- ・市内の全小中学校をモデル校に指定し、全小中学校に小中一貫コーディネーターを位置付け、中学校区毎の実態に応じた取組を行ってきた。また、「やつしろスピリッツ」を基盤として、全中学校区で共通した7つの取組を実践してきた。

5. 今後の取組

●「地域とともにある学校づくり」の推進

- ・中学校区を単位としたコミュニティ・スクールや熊本版コミュニティ・スクールの導入を推進するとともに、9年間を見通して、学校、保護者、地域間で育成を目指す資質・能力や教育目標等を共有し、より広い地域からの組織的な学校支援体制を構築し、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

●市町村教育委員会への支援

- ・新たに小中一貫教育に取り組もうとする市町村教育委員会については、引き続き、先進地域等の情報提供や教育課程編成等における指導助言などの支援を行う。

○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

1. 市町村の概要

- 人口：37,401人（平成29年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：7校，児童数2,186人 [中学校] 学校数：3校，生徒数954人
（学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在）

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・平成17年度に研究開発学校として指定を受け研究を進めてきた宇土市立網田小学校，網田中学校のこれまでの取組をモデルとして，他の小中学校に広げるため。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・小中一貫教育及びコミュニティ・スクールの導入により，児童・生徒が多様な地域人材，教職員及び児童・生徒と関わる機会を増やす。指導・支援体制を充実させることにより，一人一人の個性の伸長及び不登校や問題行動等の未然防止・解消を図る。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について
 - ・モデル校において，小中学校間をスムーズに接続するための「乗り入れ授業の工夫・改善」，自分の考えや思い，考えを豊かに表現できる能力を高める「スピーチ活動」の工夫を行った。

(1) 乗り入れ授業の工夫・改善

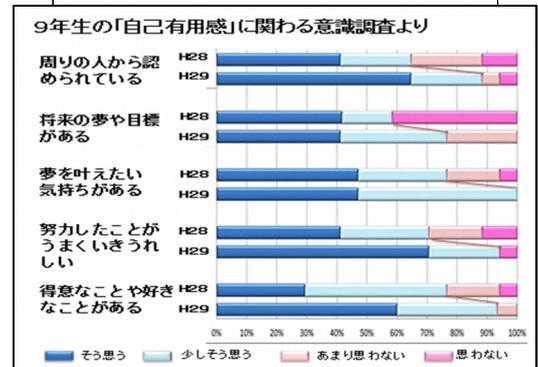
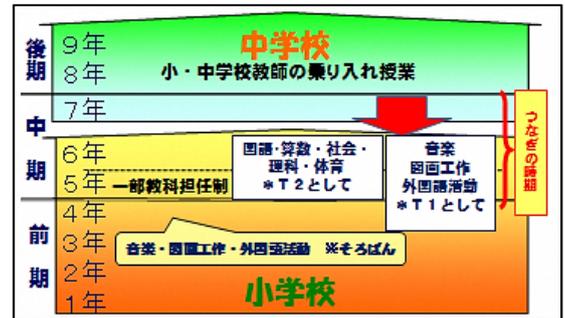
中期（小5～中1）を「つなぎの時期」と捉え，その指導に重点を置いた。学力向上はもとより，中学校生活への安心感や向上心，学習意欲等を高めるために中学校教師が5・6年生の学級担任と連携して授業を行っている。また，学期に1回（年間3回），5・6年生が中学校に登校して中学校教師の授業を受ける体験入学も実施している。その際，中学生との合同授業も実施した。さらに，本年度は6年生が毎週金曜日に中学校へ登校し，乗り入れ教科を中心に授業を受けている。

6年生が毎週中学校に登校することで，児童・生徒の交流が増え，縦割り班での給食，昼休みのレクリエーションなど，日常的な関わりも持てるようになった。

(2) スピーチ活動

小学校では国語の授業や業間活動で，中学校では「総合的な学習の時間」に位置づけ，系統的・計画的に実施している。小学校では，月1回の「表現集会」で，中学校では週1回の「縦割りスピーチ」の時間に代表が発表して学年間の交流も行っている。さらに，小6から中3までの縦割り班ごとのスピーチ活動も取り入れた。上学年のスピーチから，構成や表現スキルを学んだり，下学年にアドバイスをしたりと，異学年のグループで活動する効果があった。

成果としては，「中学生になるのが楽しみ」と回答した5・6年生は，ここ数年ほぼ100%であり小中学校のなめらかな接続が図られている。また，小6や中3のリーダー性や自己有用感にも高まりが見られる。



4. 今後の取組

- 全小中学校において，より効果のある取組を進める。
 - ・中学校区の規模に大きな差があるため，各中学校区の実態に応じて，教育課程や学習習慣（学習スタイル，家庭学習等），生徒指導などの面において系統性を持った指導を図っていく。

○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

1. 市町村の概要

- 人口：37,401人（平成29年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：7校，児童数2,186人 [中学校] 学校数：3校，生徒数954人
（学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在）

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・平成17年度に研究開発学校として指定を受け研究を進めてきた宇土市立網田小学校，網田中学校のこれまでの取組をモデルとして，他の小中学校に広げるため。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・小中一貫教育及びコミュニティ・スクールの導入により，児童・生徒が多様な地域人材，教職員及び児童・生徒と関わる機会を増やす。指導・支援体制を充実させることにより，一人一人の個性の伸長及び不登校や問題行動等の未然防止・解消を図る。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について
 - ・モデル校において，小中学校間をスムーズに接続するための「乗り入れ授業の工夫・改善」，自分の考えや思い，考えを豊かに表現できる能力を高める「スピーチ活動」の工夫を行った。

(1) 乗り入れ授業の工夫・改善

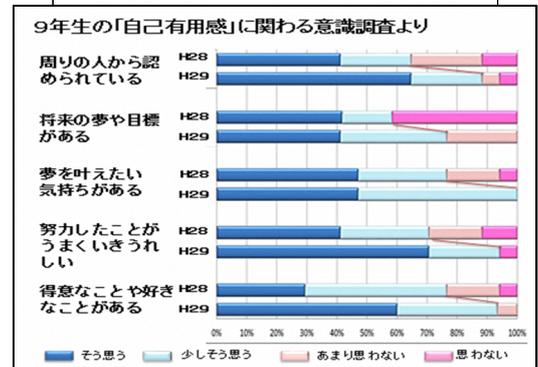
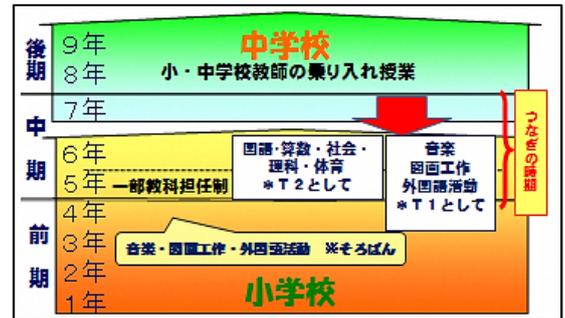
中期（小5～中1）を「つなぎの時期」と捉え，その指導に重点を置いた。学力向上はもとより，中学校生活への安心感や向上心，学習意欲等を高めるために中学校教師が5・6年生の学級担任と連携して授業を行っている。また，学期に1回（年間3回），5・6年生が中学校に登校して中学校教師の授業を受ける体験入学も実施している。その際，中学生との合同授業も実施した。さらに，本年度は6年生が毎週金曜日に中学校へ登校し，乗り入れ教科を中心に授業を受けている。

6年生が毎週中学校に登校することで，児童・生徒の交流が増え，縦割り班での給食，昼休みのレクリエーションなど，日常的な関わりも持てるようになった。

(2) スピーチ活動

小学校では国語の授業や業間活動で，中学校では「総合的な学習の時間」に位置づけ，系統的・計画的に実施している。小学校では，月1回の「表現集会」で，中学校では週1回の「縦割りスピーチ」の時間に代表が発表して学年間の交流も行っている。さらに，小6から中3までの縦割り班ごとのスピーチ活動も取り入れた。上学年のスピーチから，構成や表現スキルを学んだり，下学年にアドバイスをしたりと，異学年のグループで活動する効果があった。

成果としては，「中学生になるのが楽しみ」と回答した5・6年生は，ここ数年ほぼ100%であり小中学校のなめらかな接続が図られている。また，小6や中3のリーダー性や自己有用感にも高まりが見られる。



4. 今後の取組

- 全小中学校において，より効果のある取組を進める。
 - ・中学校区の規模に大きな差があるため，各中学校区の実態に応じて，教育課程や学習習慣（学習スタイル，家庭学習等），生徒指導などの面において系統性を持った指導を図っていく。

○小中一貫教育を推進するための体制の構築等
 ○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組
 ○小中一貫教育を推進するための評価方法、成果・課題の把握

1. 市町村の概要

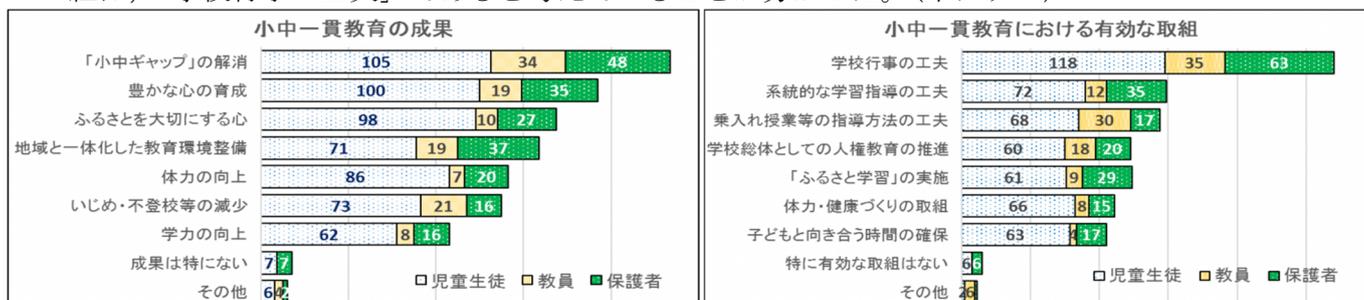
- 人口：59,760人（平成29年10月31日現在）
- [小学校] 学校数：13校，児童数3,159人 [中学校] 学校数：5校，生徒数1,562人
 （学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在）

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 児童生徒の発達の早期化に伴う精神的な揺れや「中1ギャップ」、学校現場の課題の多様化・複雑化等の教育課題が見られる中、その課題解決に向け施設一体型小中一貫教育校（宇城市立豊野小・中学校）の成果を市内全域に拡げるため、市内全域での導入を図る。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 市内全域（5中学校区）において、9年間の義務教育における系統的・継続的な学びを通して、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を図る。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための体制の構築等について
 - 平成29年度、各小・中学校にコーディネーターの任命を依頼し、各校長及びコーディネーター参加で、小中一貫教育推進会議を新たに実施した。本会議を次年度以降位置付けることにより、宇城市の方針や事業内容の周知、各ブロックにおける具体的な取組内容や成果の共有が可能となった。
 - 平成29年度、小中一貫教育の理解と実践力の向上を図るための教職員全員研修会を実施した。内容は講演会と実践発表で、モデル校及び成果を上げているブロックの実践内容を共有した。参加者アンケートによると、96%が「理解が深まった」、90%が、「今後の教育活動に活かそうである」と回答した。
- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について
 - 平成27年度にモデル校を指定し、その取組の成果を市内全ブロックに拡げていった。
 - ・4-3-2制など学年段階の区切りごとに重点を定めた指導体制の整備。
 - ・小学校高学年の教科担任制，乗り入れ指導。
 - 各ブロックで取組総括を行い、成果と課題を把握した。
 - ・「〇〇中学校区小中一貫教育推進プラン」を作成し、そのプランをもとに、評価と次年度に向けた考察を実施。
 - 育ちや学びの連続性の確保を目指し、「効果的な家庭学習」「学習規律の徹底」を市内全域で共通実践事項とした。
 - ・小小の実践を共通化。小中の系統性のある取組。
- 小中一貫教育を推進するための評価方法、成果・課題の把握について
 - 市内全域で教職員，小6児童，中1生徒を対象に意識調査を実施した。
 - 意識調査をブロック毎に集計分析し、総括及び次年度考察に活用した。
 - モデル校において、独自の意識調査を行った結果、特に接続期の取組みに成果が見られ、有効な取組は、「学校行事の工夫」であると考えていることが分かった。（下グラフ）



4. 今後の取組

<モデル校におけるアンケート調査結果（教職員・児童・生徒・保護者）数値は人数

- 宇城市小中一貫教育推進計画に沿った取組の充実
 - 宇城市全域において、中学校区（ブロック）を核とした小中一貫教育の取組の推進・充実を図る。
 - ・各小・中学校のコーディネーターの設置及び小中一貫教育推進会議の実施等。

○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

1. 市町村の概要

- 人口：67,261人（平成29年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：21校，児童数3,474人 [中学校] 学校数：6校，生徒数1,635人
（学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在）

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・社会環境の著しい変化等を背景とする課題が学校教育において山積し、義務教育9年間で向上すべき資質・能力が低下していること、学校が抱える課題の解決のために9年間を一体としてとらえる教育が全国で推進され成果をあげていること等から、本市でも同様の効果が期待できると考えた。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・各中学校区の小中学校が一体となって、保護者や地域と連携・協働し、義務教育9年間を見通した一貫性のある学習指導や生徒指導を行っていくことで、子供たちの「知・徳・体」のバランスのとれた成長と学校生活の充実を図るとともに、豊かな人間性や社会性の育成と学力の向上を図る。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

● 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について

玉名市では、平成24年度に小中一貫教育推進計画を策定し、小中一貫教育を開始した。市内全小中学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、特色ある教科「玉名学」と独自の英会話活動「E・E」に取り組んでいる。

【玉名学】社会性や道徳性、伝統や文化を大切にしようとする心、国際社会の中で自立していける力を育てることを目的とした義務教育9年間を貫く学習。小学校1年生から中学校3年生まで「玉名学」礼節・探究・日本語のテキストを使い、系統的に学習する。

【E・E（エンジョイ・イングリッシュ）】玉名市独自に作成した学習プログラムとDVDを使って、楽しく繰り返し英会話力を育成する活動。玉名のよさ等について英語で紹介できる力を育てる。



「玉名学」礼節・探究・日本語テキスト



「E・E」DVD・ガイドブック

【平成27年度】

- ・市内全小学校において「E・E」を全面実施（完成版DVDとガイドブック配付）
- ・第3回小中一貫教育推進フォーラム（教職員、保護者、地域住民の啓発）実施
行政説明：文部科学省 石川仙太郎専門官，講演：千葉大学 天笠茂特任教授
- ・研究指定校において「玉名学」研究発表会開催（10月大野小，11月玉南中）
実践後の気づきや意見をもとに、テキスト等の内容の再検討、修正
- ・「玉名学」テキスト及び教師用指導書の完成、年度末に各学校に配付

【平成28年度】

- ・市内全小中学校において「玉名学」を導入
- ・第4回フォーラム 講演：多久市立小中一貫校東原庵舎中央校 峰茂樹校長
- ・市教育センター郷土学習部員等による「玉名学」礼節・探究の公開授業実施
- ・「玉名学実践事例集」の発行、年度末に各学校に配付

【平成29年度】

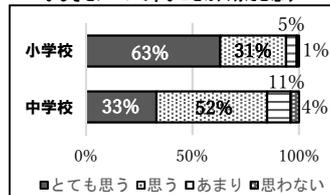
- ・市内全小中学校において「玉名学」を完全実施、学校化の推進
- ・第5回フォーラム 講演：呉市立蒲刈中学校 二宮肇美校長
- ・小中一貫教育推進事業モデル地域「岱明中学校区（4小1中）」において研究発表会開催（11月）「目指す子供像」の具現化に向けた「共通実践事項」（知・徳・体）の取組、小中一貫の視点での合同授業研究会や小・小及び小・中交流活動等の研究成果を広く発信し、他中学校区の取組を促進
- ・市教育センター郷土学習部員外の教員による「玉名学」公開授業、研究会実施

【取組の成果】「玉名学」に関する意識調査より

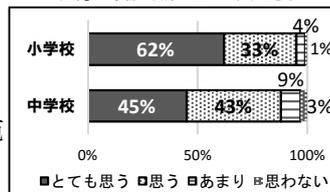
- ・「ふるさとについて学ぶことはとても大切・大切である」と答えた児童生徒が8～9割であった。ふるさと玉名のことを学ぶ探究に意欲的に取り組み、郷土愛が高まってきている。
- ・「礼節の学習は自分のためになる」の回答も9割前後で、児童生徒は学ぶ意義を感じて臨んでいる。

「玉名学」に関する意識調査(H29.3)

ふるさとについて学ぶことは大切だと思う



「礼節」の学習は自分のためになると思う



4. 今後の取組

● 義務教育9年間の連続性を生かした教育実践の深化

- ・「玉名学」と小中一貫教育の推進状況の関係についての検証、「玉名学」指導計画の見直し
- ・玉陵小学校（平成30年4月開校、本市初の中学校との施設一体型）の円滑なスタートに向けた支援

○小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組

1. 市町村の概要

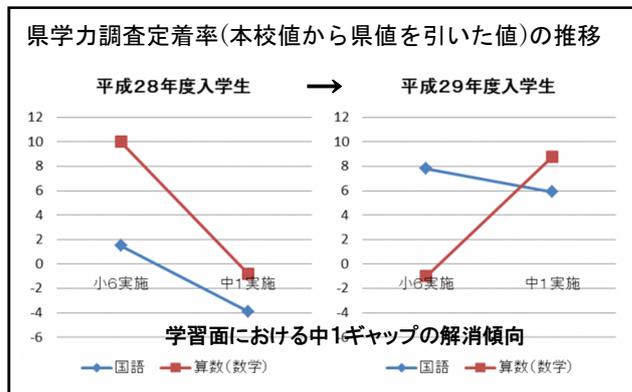
- 人口：10,278人（平成29年12月31日現在）
- [小学校] 学校数：5校，児童数410人 [中学校] 学校数：2校，生徒数217人
(学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在)

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・地域の過疎化，少子化が進む中で，町内の多くの小学校で複式学級が増えていた。学校規模の適正化を検討した結果，複式学級の解消，小学校の統廃合と併せて，学力の向上，不登校やいじめ問題などの中1ギャップの解消のため，発達段階に応じた教育として小中一貫教育を導入することとした。
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・学習規律，授業スタイル，交流授業等を通して中1ギャップの解消を図るとともに，学力向上を目指す。また，小中の乗入れ授業を実施し，小中併設型校舎における小中一貫教育を推進することで，その成果と課題を明らかにしていく。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

- 小中一貫教育を推進するための教育課程・指導方法上の取組について
- (1) 学び（授業）における小中の段差を低くするために，小学校5，6年生の授業を中心に中学校教員が乗り入れて授業を実施した。
- ・乗入れ授業を「通年で乗り入れる教科」と「単元や題材を特定して乗り入れる教科」に分けて行うことで，中学校教員の担当時数が極端に増えないようにした。
 - ・小中の日課表を擦り合わせ，工夫することで，週あたり16時間での乗入れ授業を可能とした。
 - ・すべての乗入れ授業を学級担任と中学校教員のTTで行い，互いの指導技術を共有し，各自の授業に取り入れることで指導力向上と段差の軽減に努めた。
- (2) 小学校1年から中学校3年まで，全学年で共通して取り組む授業モデルを構築した。
- ・課題解決型学習における授業の流れを統一し，「みかわ学習」と名付け，協働・協調的な学びを重視した授業を行った。
 - ・児童生徒が見通しをもって学習に参加できるよう，すべての授業で板書する共通項目を定めた。
- (3) モデル校の課題である「健康な生活を過ごそうとする態度の育成」「コミュニケーション能力の育成」の改善を図るため，9年間を見通したカリキュラムを作成し，授業を通してその改善に努めた。
- ・教科や道徳，学活等の内容から「健康な生活」に関する指導内容を抜き出して一つのカリキュラムとして再構成し，授業を実施した。
 - ・総合的な学習の時間と特別活動の指導内容に「レジリエンスとコミュニケーションスキルの育成」を取り入れ，授業を実施した。



課題として，「乗入れ授業におけるTTの役割を弾力的に分担すること」「協働・協調的な学びの中に発表する活動を多く取り入れて，表現力の育成を図ること」「9年間を見通したカリキュラムに基づく授業に対する指導者及び児童生徒の意識を高めること」が挙げられた。

4. 今後の取組

- 本小中学校では，この3年間，中1ギャップの解消や表現力の向上を目指して，指導体制や共通の授業スタイルの確立等を図り，一定の成果を上げてきた。しかし，地域や児童生徒の実態に即した9年間を貫く学習を計画し，実践するところまでは至っていない。今後は，総合的な学習の時間の一部を活用して，9年間を貫く学習を設定・実施したいと考えている。

○八代型小中一貫・連携教育～「やつしろスピリッツ」を基盤として～

1. 市町村の概要

- 人口：129,076人（平成29年11月30日現在）
- [小学校] 学校数：24校，児童数6,413人 [中学校] 学校数：15校，生徒数3,043人
（学校数・児童生徒数は平成29年5月1日現在）

2. 小中一貫教育の導入の背景・目的

- 小中一貫教育を導入した背景
 - ・小中学校の連携強化 ・学力の向上及び不登校の未然防止と解消
 - ・人権尊重の精神を基盤にした豊かな心の育成 ・地域とともにある特色ある学校づくり
- 「小中一貫教育推進事業」の目的
 - ・子供たちの「生きる力」を育むため、義務教育9年間を見通した小中共通の目標（めざす子供像等）、指導内容及び指導方法等を共有し、中学校区の実態に応じて、小中相互に連携・交流し合いながら、育ちと学びの連続性を図る。

3. 本調査研究において取り組んだ内容

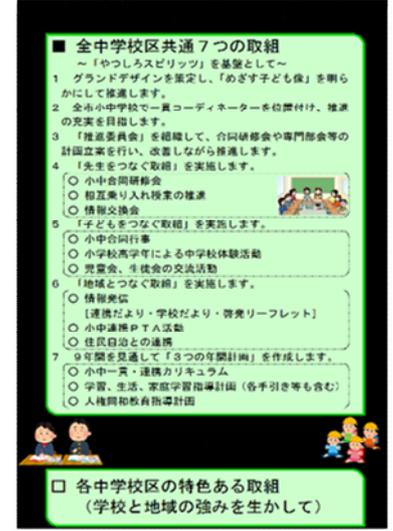
- 八代型小中一貫・連携教育～「やつしろスピリッツ」を基盤として～

○やつしろスピリッツ

市内すべての小学校、中学校、特別支援学校、公立幼稚園で「育ちと学びの土台づくり」のために、子供も教師も保護者も一緒になって取り組んでいる。



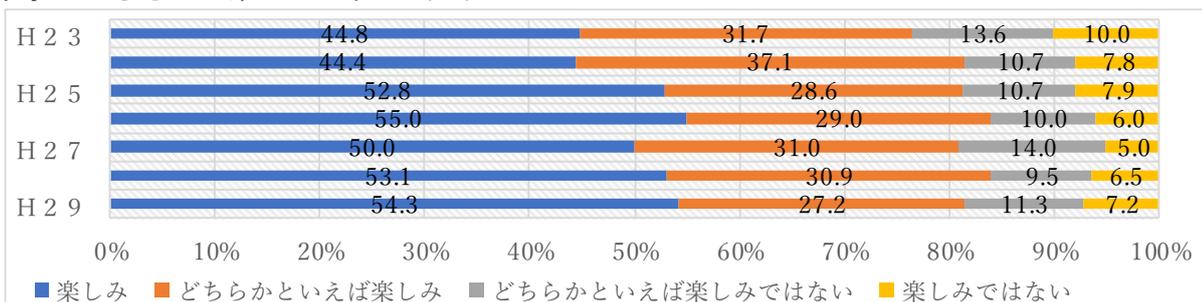
○全中学校区共通7つの取組



○全中学校区共通7つの取組

全中学校区で「やつしろスピリッツ」を基盤として、共通した7つの取組を行い、そこに各中学校区の色ある取組を加えることにより、特色ある「八代型小中一貫・連携教育」を目指している。

○平成29年度意識調査（小6）の結果から ＜中学生になるのは楽しみですか（％）＞



○この7年間の結果から、「中学生になるのが楽しみ」と答えている児童の割合が増えており、各中学校区の様々な取組の成果が出てきている。

4. 今後の取組

- 「八代型小中一貫・連携教育」実践校公開授業研究会
- 5月 小中一貫コーディネーター研修会
- 11月 「八代型小中一貫・連携教育」に係る意識調査
- 2月 平成30年度「八代型小中一貫・連携教育」総括集
- 小中合同研修会 ● 相互乗り入れ授業の推進 ● 情報交換会 ● 小中合同行事
- 小学校高学年による中学校体験活動 ● 児童会、生徒会の交流活動
- 情報発信（連携だより・学校だより・啓発リーフレット） ● 小中連携PTA活動
- 住民自治との連携等